

第6回「相米慎二監督映画祭り」開催記録

第6回 魅力発信、田子に眠る映画監督

相米慎二 監督映画祭り

2019 8/24 (土)

青森県田子町
タブコヒアンプラザホール

午前の部	
10:10	開場
10:40	開演
10:45 ~ 12:40	上映
上映後、舞台あいさつあり	
午後の部	
13:00	開場
13:20	開演
13:30 ~ 15:25	上映
15:45	トークショー
17:00	終演

入場無料 (整理券必要)

ただし、原則として入場整理券が必要です。また、小学生以下のご入場はご遠慮ください。

入場整理券をご希望の方は、下記「かみ」の方法でお取りください。
(平日のみ)

①「かみ」でお取りください。
田子町公民館福祉課まで電話お取りいただけます。

②「電話」でご予約ください。
☎ 0179-20-7127
時間 9:00 ~ 17:00
田子町福祉課福祉課 電話「映画祭り」係
お電話でご予約の場合、入場整理券は「映画祭り」当日、会場受付でお取りいただけます。

入場整理券配布 (平日のみ)

田子町福祉課福祉課 (映画祭り) 7月29日 ~ 31日
【配布日】 8月1日
お一人様午前または午後のいずれか一方の配布にてさせていただきます。配布終了の時点で配布終了となります。配布終了の後は、お電話でお取りください。

シャトルバス運行あり (午後・午後入場者向け)

8月24日(土) 【入場前・会場内】
17:30 ~ 19:00 田子町中央公民館ホール 会費: 3500円 (前売券限定500円)
販売期間: 8月2日 ~ 18日 ☎ 0179-32-3165

トークショーゲスト
(要予約) 相米慎二監督

聞き手
俳優 三浦友和
監督 榎戸耕史
監督 富樫森

映画祭り終了後、ゲストとの交流会あり (相米慎二監督つくし食主催)
17:30 ~ 19:00 田子町中央公民館ホール 会費: 3500円 (前売券限定500円)
販売期間: 8月2日 ~ 18日 ☎ 0179-32-3165

青森県田子町 田子町福祉課 電話 0179-20-7127



たっこまち
【青森県 田子町】

【会場・ロビー】 入場待ちの行列、頂戴したメッセージや監督作品ポスター、遺族寄贈の貴重な資料などを展示しました。



【トークショー・抽選会】撮影時のエピソードや相米監督にまつわるたくさんのお話が紹介され、お客様も大満足の様子でした。



【お墓参り】

相米監督の令兄 相米琢磨さんと関係者の皆様で相米慎二慰霊碑へ、相米監督の眠る墓前で静かに手を合わせました。



【交流会】

映画祭り終了後、「映画監督相米慎二を語りつくす会」が交流会を催し、関係者と一般参加者が親睦を深めました。



「監督との出会いが原点」

三浦友和さん思い出語る

田子

田子町ゆかりの映画監督の故相米慎二監督をしのぶ映画祭りが24日、同町のタフコシアンプラザで開かれた。6回目の今回は「台風クラブ」を上映。同作品に出演した俳優の三浦友和さん(67)がトークショーを行い、「監督との出会いが俳優の原点」など思い出を語った。

1985年公開の同作品 までの二枚目役とは異なる、は、中学3年の子どもたちが だらしない教師役で、新たな主人公。学校を舞台に思春期の エネルギーや危うさを描いた。 上映後のトークショーで三浦さんは、当初は出演を断るつもりだったと述懐。周りを

三浦さんは当時32歳。それ



相米慎二監督との思い出を語る三浦友和さん

その気にさせる相米監督の手柄を「究極の人垂らし」と愛情たつぷりに表現した。何度もしりとりを繰り返さないことで知られた相米監督。撮影中に「振り向いた姿が三浦友和なんだよ」と、独特の表現で型にはまった演技を指摘されたエピソードを明かし、「口には出さなかったが、俳優って面白いだろう」というのを教わった」と感謝した。

映画祭りは町主催。午前と午後の2部構成で、町内外から640人が訪れた。トークショーには同作品で助監督を務めた榎戸耕史監督(66)と富樫森監督(59)も登場した。相米監督は、父親が同町出身で、町内の墓に眠る。「セーラー服と機関銃」などの作品がヒット。2001年に肺がんのため53歳で死去した。(金澤一能)

田子ゆかり 故相米監督しのび映画祭り

相米監督作品「俳優の原点」

田子・映画祭り 友和さん思い出

田子町ゆかりの映画監督・故相米慎二さんの魅力を伝える「相米慎二監督映画祭り」が24日、町のタフコシアンプラザホールで開かれ、監督6作品目の「台風クラブ」(1985年)が上映された。出演した俳優

三浦友和さん(67)がトークショーのゲストとして登場。俳優の原点とも言える作品」と感慨深げに当時の振り返りを行った。

「台風クラブ」は、台風の接近をきっかけに日、の鬱屈した感情を爆発させる少年少女を描いた青春映画の傑作。それまでの二枚

目のイメージを覆し、だらしない教師を演じた三浦さんにとって、大きな転機となった。

三浦さんが相米さんと出会ったのは32歳のとき。歌手の山口百恵さんと結婚後、仕事に恵まれない時期にオファーが寄せられたという。役柄に合わない」と

も、時間がたつにつれて見方が変わった」と予定調和で収まらない映画の魅力を紹介。「監督がいなければ(役者として)間違った方向に行っていたかもしれない」と亡き恩師との出会いに感謝していた。

「セーラー服と機関銃」など13作品を世に送り出した相米さんは2001年に53歳で生涯を閉じ、父の出身地・同町相米地区にある先祖代々の墓に眠る。祭りは町が主催し、今年で6回目を迎える。今回は午前と午後の部の特別2部構成で行われ、過去最高の約640人が駆け付けた。(松田啓志)



トークショーで相米監督との思い出を語る三浦さん

一度は断ろうと思っただけの「結局は丸め込まれた。(監督は)究極の人たらし」と来場者を笑わせた。作品のすごさと面白さが分かったのは、50歳を過ぎてからだという。「最初に見たときはあっけにとられたけれど